

## 西宮市と神戸市の視察に行ってきました

くさっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールが、基幹相談支援センター運營業務としてスタートして、4年目を迎えました。この度、基幹相談支援センターや委託相談支援事業所の運営の参考になると思われる、兵庫県西宮市と神戸市の基幹相談支援センターを視察しました。視察で印象に残ったことの幾つかを、ご報告します。なお、今回の視察には、委託の相談支援事業所3事業所から4名の方にご一緒いただきました。

各市の基本情報	人口	世帯数	行政区の数	委託相談事業所数	手帳所持者数	サービス利用者数 (総合支援法分)
西宮市 (中核市)	489,170 (H28.10.1)	212,486 (H28.10.1)	—	基幹 1	22,191 (H28.4.1)	3,066 (H28.9.30)
神戸市 (政令市)	1,536,353 (H28.10.1)	710,335 (H28.10.1)	9	委託 14※ 基幹 1	108,673 (H28.3.31)	11,726 (H28.3.31)
札幌市 (政令市)	1,958,405 (H28.10.1)	932,808 (H28.10.1)	10	委託 19 基幹 1	124,430 (H27.3.31)	18,586 (H28.5.31)

### ◎障害者総合相談支援センターにしのみや【視察日程／10月18日(火)】

※小規模5箇所を含む

平成24年度までは、複数の委託相談と指定相談だったが、平成25年度からは、基幹相談以外は全て指定相談という状況に移行した。その際に委託相談から基幹相談に法人を越えて移籍した相談員が数名いる。

初回面談等で、指定相談と一緒に基幹相談も一人ひとりのケースに関わる、【ダブルチーム】という方法を取っている。新しく指定相談が増える中で、「本人を置いてきぼりにしていませんか」と、基幹相談が問いかけている。〈サービス等利用計画〉を〈本人中心支援計画〉と呼んでおり、市独自の書式として、協議会の相談支援部会(行政も参加)で検討され使われている。〈本人中心支援計画〉にまつわる書式でも、「本人を置いてきぼり」にしない工夫がされている。

障害福祉サービス等の支給決定には基準があり、基準を超えた〈本人中心支援計画案〉については、行政が〈ケースワーカー会議〉を開催して支給決定内容を検討している。行政の支給決定担当者も本人の状況を把握していることが前提とされ、いわゆる〈協議調整モデル〉が実践されている。

### ◎神戸市障害者基幹相談支援センター【視察日程／10月19日(水)】

全市で、統括コーディネーター1名体制。個別の相談活動は行わず、相談員の後方支援を行う。協議会事務局のほか、要綱に定めのある委託相談の集まる会議や、指定相談の集まる会議の開催を担っている。

札幌市で言う委託相談は、〈障害者地域生活支援センター〉の名称で統一。障害種別や児者を問わず、家族も対象に含んでいる。開設時間を統一し、日曜祝日も毎日開設、人口の多い区には小規模センターも設置している。

協議会は、課題整理プロジェクトが、区協議会で抽出された課題を、「施策推進協議会に市協議会の意見として提出するもの」「市協議会で協議するもの」「区協議会で協議するもの」等に整理する。区によっては相談支援部会がある(市域は無)。

地域活動支援センターI型(札幌市でいう相談支援併設型のような事業)は、各区に1ヶ所ずつ設置。平成27年度からは、相談支援併設を条件から外し、相談支援を併設しないI型の運営が可能になった。

今回の視察では、お互いのまちの違いから、沢山のヒントをいただくことができました。札幌という地域で日々活動をしていると、日常の活動が当たり前になってしまい、なかなか、新しいアイデアが湧かずにいることを痛感しました。今後の札幌の地域づくりの参考になればと思っています。(hay)



## 精神障がい者地域生活移行支援事業



昨年度から開始した「精神障がい者地域生活移行支援事業ピアサポーター活用業務」として、精神科病院からの地域移行支援に取り組んでいます。取り組んでいるというものの、まだ一病院一名の実績しかありませんがご紹介させていただきます。

23年間という長期入院ケースでした。4月からピアサポーター2名と一緒に取り組み9月に退院しました。

ご存知の通り、この事業自体は個別給付化した地域相談支援の「地域移行」「地域定着」とは異なりますが、内容や流れは同じで、私たちもそれを意識して概ね6か月間を目標に退院の準備を進めてきました。目標に向かって進めることはどの事業においても間違いではないと思っておりますが、入院中には見られなかった現象が退院後の地域生活では課題として浮かび上がり、準備期間の大切さを現在痛感しております。

ピアサポーター2名の活動としては、デイケアまでの公共交通機関の行き帰りの同行や余暇の過ごし方のお手伝いをメインに行っています。退院前からの関わりがあるため、ご本人にとってピアサポーターは安心できる存在であり、ピアサポーターと過ごす時間は入院中には経験できなかったことを楽しく体験できる時間となっているようです。地域で生活する人にとっては普通に利用しているスーパー、公園、喫茶店…、その一つ一つを新鮮に感じ、純粋に喜びご本人の姿に「退院をお手伝いできて良かった…」とピアサポーターも実感しています。地域定着期間についても6か月間と考えていますが、事例を積み重ねながら、よりよい事業となるよう検討していきたいと考えております。

この事業が入院中の精神障がい者の地域移行に役立つように、もっと活用されるように普及啓発活動も併せて行なっていきたいと思っております。(yos)



## 誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務

7月に発行をしたワン・オールプレスでも紹介させていただきました、今年度から開始をした災害支援に関する事業です。事業開始から半年以上経ち、町内会や区社会福祉協議会などからご依頼があり、障がいのある方との接し方、お手伝いの仕方や、災害時の避難を手伝う際の留意点などについてのお話しさせていただく機会がありました。このような機会をいただくことで、それぞれの地域の災害への取り組みの違いや工夫など多くを学ばせてもらっています。まだ実際に個別の避難計画作成のお手伝いまでは至っていませんが、モデル避難計画の作成や、障がいをお持ちの方にもわかりやすい資料の作成などを行っています。また、この事業について皆さんに広く知ってもらうことや、各地域での取り組みなどもお伝えするような機会もできればと考えております。

「災害」という誰にも起こりうる出来事を通して、障がいだけではなく「要配慮者」といわれる方々を地域でどのように支えていくかを、関係するみなさまと一緒に考えていける機会になればと思っています。今後、みなさまにもお声がけさせていただくこともあるかと思っております。その際はよろしくおねがいします。(sat)



さっぽろ地域づくりネットワーク

ワン・オール



〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園 302号

TEL: 011-213-0171

FAX: 011-213-0172

E-mail: [sapporo@one-all.net](mailto:sapporo@one-all.net) URL: [one-all.net](http://one-all.net)